

## 編集後記

2023年度は、5月より感染症対策による様々な制約がほぼなくなったことが大きな変化となりました。食事用意、続講の授業、外部講師を招いての特別授業など、これまで以上に活発な教育活動が行われました。学びの発表会についても、感染症対策を行った前回と比べ、たくさんの保護者の皆様に参加していただき、見学者と子どもたちとの活発な交流のある会を実施することができました。来年度以降探求的な学びの在り方を模索し、変化を恐れず一步一歩進んでいきたいと思っています。

初等部 田嶋健人

2023年度は、中等科3年生の広島研修旅行や野の花祭・黎明祭を女子部・男子部合同で行うなど、2024年度の中高共学化に向けた準備が着実に進められました。また、探求や学びの共有会「まなコレ」では、学びや評価の本質を問いつながら、新たな試みが行われました。自由学園の新時代に向けて、保護者の皆様をはじめ多くの方々に支えられながら、生徒と教職員が共に一生懸命歩んだ1年でした。ありがとうございました。

女子部 鈴木雄紀

男子部として歩む最後の1年間、生徒・教職員・保護者がどのように過ごしたのかを残すことには、大きな意義があると感じていました。もちろんここに語られない葛藤や試行錯誤も非常に多くあったこと思います。

24年度以降、女子部・男子部の区分はなくなりますが、これからも一つの家庭・一つの社会として共に生き、成長し、働きかけていく学校であることに変わりはありません。

忙しいなか原稿を作成いただいた教職員の皆様に感謝いたします。

男子部 山本太郎

2023年度も、最高学部では様々な研究・教育実践活動が行われた。その中にはEU奨学金エラスムスプラスを利用しての教員の交換交流や学生の留学など最高学部の長い教育実践として特筆すべきこともあった。最高学部の活動を支えていただいたい多くの方々に感謝すると共に、年報をお読みいただいた方々に最高学部の教育実践が広く伝わることを願う。

最高学部 奈良忠寿

2023年度は、中等教育段階の男女別学最後の年度でした。女子部は1921年、男子部は1935年に創立されて以来、同じ自由学園という学校の理念のもとに教育内容が蓄積されてきましたが、両者には共通部分もまた異なる部分もありました。それらを知る人は、今後の学校のために記録として残す使命があります。2018年からの学校改革で、何かを変えるときにはその歴史をさかのぼる必要があることを、多くの人が経験しました。それは未来の自由学園でも同じです。変化し続ける社会の中で、教育は、また学校はどうあればよいのか。それらの検討の際に歴史を見ているかいないかは、改革の方向性が盤石であるかどうかにもかかわってくると思います。年報がその一助になる信じて今年度も編集をしました。共学化1年目の2024年度中に作業を進めることとなり、教職員の方々にはご多忙の中ご協力いただきました。感謝いたします。

資料室 菅原原子